

# 熊本県衛生公害研究所

熊本市南千反畑町四―三三  
電話（〇九六三）五五―二三五一



▲ガスクロマトグラフによる残留農薬試験

当研究所は、昭和二十三年十二月に、従来ありました衛生試験所と細菌検査所を統合し、熊本県衛生研究所として発足しました。その後昭和四十五年七月に公害部が増設され、昭和四十六年九月に熊本県衛生公害研究所と改称し、現在に至っております。

当研究所は、公衆衛生の発展向上と公害防止対策の促進を図るため、衛生行政、公害行政の科学・技術の中核として、関係行政部局と緊密な連携のもとに、調査研究、試験検査、研修指導及び公衆衛生情報の解析・提供を行うことを目的として設置されたものであります。

健康水準は高度経済成長による生活水準の上昇と保健衛生対策等の充実、あるいは健康意識の向上などにより著しく改善され、平均寿命も年々延長の傾向にあります。近年の社会経済の発展、技術革新は著しく、それに伴って、自然環境の悪化による公害の問題、食品、医薬品及び家庭用品の安全性の問題、ウイルスその他の病原菌感染症の問題等が大きな社会問題として取り上げられ解決を急がれています。

このように県民の健康と快適な生活に対する関心が高まり、当所に対する要望

も益々多様化してまいりました。当研究所は、総務課、生物科学部、理化学部、大気部、水質部の一課四部制で、四十三名の職員が次の調査研究、試験検査等の業務に励んでおります。

- 一、疾病の予防に関する調査研究、試験検査
- 二、環境保健、生活環境施設に関する調査研究、試験検査
- 三、食品、医薬品等、家庭用品及び栄養に関する調査研究、試験検査
- 四、上水、下水、廃棄物、温泉等に関する調査研究、試験検査
- 五、大気汚染、悪臭、騒音に関する調査研究、試験検査及び防止指導
- 六、水質汚濁に関する調査研究、試験検査及び防止指導

以上のように、県民の健康を守るために、必要な日常の試験検査、調査研究等を行っておりますが、最近、多種多様な検査と高度な技術が要求されておりますので、当研究所もより精密な機器を整備し、併せて、より一層職員の技術研さんに努め、何時でも県民の御要望に応じ得るよう努めてゆきたいと念じております。



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

## 一日一日が 一生懸命でありたい

歌手 水前寺 清子

熊本城の桜が満開に咲みだれた四月六日、演歌の第一人者として活躍中の水前寺清子さんが、全国にナマ中継される「全国縦断紅白歌合戦」に出演のため帰熊されたのを機会に、城内の天守閣前広場でリハーサル中の大変忙しいところを訪ねた。

茶の間で見る水前寺清子さんと違って大変可愛らしいお嬢さんといった感じで、チータの愛称もひよっとしたらそこらへんからついたのかも

しない。「本当のところ歌い手になりたいというよりも歌い手にならなければ生活がなっていないということから始めた歌い手ですから」という水前寺さんは、すでに中学校のおわり頃にははっきりそう思うようになっていたという。本番前のわずか三十分のインタビューであったが、演歌の第一人者としてのおごりなどどこにも感じない、徹底してプロに徹しようという意気込みを強く感じた。

「一日一日が一生懸命でありたい」というチータはその夜、夜桜に映える熊本城をバックに「肥後の駒下駄」をせいっぱい唄いあげ大きな拍手を浴びた。

熊本市立碩台小学校卒業後、家族そろって上京、三十九年十一月「涙を抱いた渡り鳥」でデビュー。四十年にはNHK紅白歌合戦に初出場。四十九年から毎年、新宿コマ劇場で一ヶ月公演を行っている。

これまで、「大勝負」「いっぽんどっこなた」「三百六十五歩のマーチ」最近では「肥後の駒下駄」など数々のヒット曲を出している。また、テレビドラマ「ありがと」は大ヒットした。司会者としてもNHK紅白の紅組司会者に選ばれるなど幅広い活躍が目立つ。本名・林田民子。東京都港区赤坂六―三―一三

